

令和元年度第1回八雲町地域公共交通会議 議事記録  
令和元年7月10日(水) 13時30分～15時00分 (所要90分)

【出席者】

(敬称略)

所属・役職	氏 名
国土交通省北海道運輸局函館運輸支局 輸送・監査担当首席運輸企画専門官	經 龜 真 利
国土交通省北海道運輸局函館運輸支局 企画調整担当首席運輸企画専門官	(随 行) 吳 憲 一 郎
北海道渡島総合振興局地域創生部 地域政策課新幹線推進室長	鈴 木 健 司
北海道渡島総合振興局地域創生部 地域政策課新幹線推進室主査	(随 行) 岡 野 文
北海道渡島総合振興局函館建設管理部八雲出張所 所長	水 元 琢 雄
北海道函館方面八雲警察署 交通課長	茅 森 猛
函館バス株式会社 バス事業部次長	金 岩 祐 也
函館バス株式会社 バス事業部管理課	(随 行) 小 間 遥 世
エスジーハイヤー株式会社 営業課長	(代 理) 最 上 純 史
八雲町町内会等連絡協議会 会長	大 野 尚 司
八雲町 町長 (地域公共交通会議会長)	岩 村 克 詔
JR 北海道八雲駅 駅長	板 東 恒 治
熊石町内会連絡協議会 会長	井 口 啓 吉
落部連合町内会 会長	知 野 修 司
八雲商工会 総務委員長	伊 藤 整 志
合同会社キャンタク	出 崎 登
八雲町熊石総合支所 地域振興課長	野 口 義 人
八雲町政策推進課 課長	竹 内 友 身
八雲町政策推進課 企画係長	多 田 玲 央 奈
八雲町政策推進課 企画係	浮 須 慎 太 郎

議事記録

5. 町の方針	意見なし
6. 検討事項	
(1) 網形成計画検討の進め方について	意見なし
(2) 八雲町の公共交通の現況について	意見なし
(3) 町民アンケート調査について	<p>(委員)</p> <p>今回のアンケートは若年層の抽出率が高いので、回収見込みの3割が満たされるか懸念がある。学校への協力要請等の検討が必要ではないか。</p> <p>(事務局)</p> <p>本来であれば、アンケートを実施するには偏りなく抽出する必要があるが、比較的関心の薄い若年層の意見を反映したいので、今回の調査は若年層の抽出率を50%まで上げている。若年層に多数配布することで、一定数の回収を想定している。配布されていない生徒もいるため、学校への協力依頼となると、全体にアンケートを実施する必要があり、アンケート実施後の回収状況により、補完が必要な場合は、検討する。</p> <p>(委員)</p> <p>まず、アンケートを実施し、回収の状況や回答の内容を見ながら、今後を検討すればよいと思う。</p>
(4) 路線バス利用実態調査について	意見なし
7. その他	<p>(委員)</p> <p>八雲町は八雲と熊石が合併し面積が広いため、路線の属性も東西で異なる。学校の統廃合により、路線バスの利用形態も以前から変化していることが考えられ、函館長万部線、檜山海岸線の赤字補填は、国の要件に辛うじて当てはまっている状況である。</p> <p>バス路線が厳しい状況にあるということを住民に認知してもらい、今回の公共交通会議が、バス利用を推進する機会の形成となればよいと考えている。</p> <p>また、バスの運賃改定についても、本来は国土交通省の承認が必要であるが、今回の会議は改定の手順を簡素化する性質を持った会議であるため、ある程度、柔軟な対応が可能である。</p> <p>(委員)</p> <p>地域公共交通は、地域住民に使ってもらうことが大前提であるため、今回の会議や町民アンケート、意見交換会を開催することで、地域公共交通について意識してもらう機会になればよいと思う。</p> <p>まずは、調査ということでよい結果をもとに、来年度以降の実証を進めるよう期待している。</p> <p>(委員)</p> <p>現在、瀬棚号を除く江差・八雲線、函館長万部線、檜山海岸線は補助を受けて運行して</p>

いる状況である。しかし、国や北海道の補助については、基準が設定されており、現在の利用状況では、基準を満たすのが厳しい路線もある。特に厳しい状況であるのが、江差一大成間を運行する檜山海岸線であり、大成から江差高校への通学利用がないため、毎日利用する利用客が少ない現状である。

隣接するせたな町でも、公共交通網形成計画の取組を実施しており、お互いに協働したいという意見も出ているようである。

また、道南の知内町はハイヤーのない地区であり、函館バスでデマンドバスを運行している。一方、せたな町では、ハイヤー事業者と協力し、家からバス停までデマンドでハイヤーを利用し、バスに乗り換えるという取組を行っている。他地域の取組を参考に、ハイヤー事業者と協力した体制にも、柔軟に対応していきたいと考えている。

(委員)

函館建設管理部としても、インフラ整備を進めているため、公共交通機関で利用していただきたい。

アンケート調査について、意見交換会の参加希望のために氏名を記入するとすると、回収率に影響するのではないかと。

また、「運転できなくても」という言葉は「運転しなくても」と変えた方がよいのではないかと。

(事務局)

もちろんアンケートは無記名が原則ではあるが、意見交換会の周知と地域の活動に対して意欲のある方の募集を目的にしているため、記名は残しておきたい。回収率についても、他地域で同様のアンケート手法を実施したが、記名があった回答は30～50名であったため、回収率に大きな影響はないと考えられる。

また、アンケートの文言についても、修正を検討する。

(委員)

高齢者の免許返納後の交通手段の確保が目的として掲げられているが、今年、八雲警察署に免許返納の届出があったのは十数件あった。その際に、公共交通の利用に対して補助が出るのか、どんな交通手段を使えばよいかといった問合せがある。

ハイヤーも公共交通機関になりうるという意見により、バスを代替する手段として検討できるが、30人近い乗客を運ぶとなるとハイヤーでは難しい。様々な手段を検討し、よりよい公共交通網を検討していただきたい。

(会長)

免許返納について、来年度以降、八雲町でも免許返納者に対してのサービスを検討中である。

(委員)

公共交通の利便性が上がると、ハイヤー業界は厳しくなっていくが、今回の内容を持ち帰り、ハイヤー事業者としてできることを検討したい。

また、アンケートが紙媒体であるのは、近年の動向としてはアナログ過ぎるのではないだろうか。若年層を対象にしているのであれば、アプリ等で回答できる形式がよいのではないかと。コンビニ等を提携し、アンケート回答者にクーポンを配布するなどのインセンティブがあれば、回収率も上がるのではないかと。

(会 長)

八雲町としては、ハイヤー事業者にはバス停や駅までの移動といった小回りの効くようなところを補填していただきたいと考えているため、ハイヤー業界を圧迫するようなことにはならないと考えている。

(事務局)

アンケートについて、ご指摘の通り最近ではインターネットでのアンケートが多くなってきているため、調査票にQRコードをつけるなどの対応は考えたい。すべてのアンケートをインターネットにすると扱えない高齢者もいるため、基本的には紙媒体を利用し、回答しやすさを求める方向けにインターネットでの回答を検討したい。

(委 員)

鉄道の乗降者数も減少傾向にあることから、アンケートで現状把握していただき、その結果は、JRとしても今後の検討に活用したいと考えている。

また、アンケートについて、回収期間が2週間では短いのではないかと考えている。

(事務局)

アンケートの回収期間を1ヶ月にしてしまうと、間延びしてしまい回収率が上がらず、お盆をはさまない期間として2週間と設定している。また、秋の初めには意見交換会を実施したいと考えているため、それまでに集計・分析が可能な期間として設定している。

(委 員)

調査票をナンバリングしていれば、誰からの回答か把握できるのではないかと考えている。

(事務局)

アンケートの記名は意見交換会への参加を希望する方のみ対象であるため、全ての回答が誰からの回答か把握する必要はない。また、調査票をナンバリングする手法も、回答者に認知されると回答してもらえない可能性があるため、今回は取り入れていない。

(委 員)

公共交通網形成計画について、全国の成功事例と失敗事例を紹介してもらいたい。

(事務局)

全国の事例については、把握しているものは全て、随時提供する。

(委 員)

商工会としても、公共交通は買物等の目的での交通弱者に対する対応として、検討している事項である。

町役場の移転について、検討されている案では高齢になった際に、徒歩での移動が難しくなってしまうため、公共交通の計画は必要であると考えている。

(委 員)

キャンタクでは、高齢者の家の中から病院までの送迎を行っている。高齢者の声として、八雲駅を利用する際、函館方面への列車へ乗車する際は、改札からすぐに乗り入れられるため問題ないが、札幌方面への列車へ乗車する際は、ホームへ向かうのに階段しかないため、反対のホームへ行くことができないという声がある。

また、バスについても、トイレ付きのバスでないと不便であるという意見も聞いているため、公共交通網形成だけでなく、設備の改善やバリアフリーについても検討してもらいたい。

	<p>い。</p> <p>(会 長)</p> <p>アンケートの回答結果の要望や、今後の公共交通会議での意見を反映しながら、検討したいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	--